

フォトアルバム



7月14日 オープンカンファ 福岡佐知子先生
「カートリッジを用いた IOL 摘出法と現在の屈折矯正手術」



9月21日 オープンカンファ 前田利根先生
「開業に関する最近の話題」

イベント情報

新型コロナウイルス感染拡大状況によっては、延期や中止などの変更が生じる可能性がありますので、

ご参加の際は最新の情報をご確認いただきたく存じます。

<第24回西東京眼科フォーラム> 会場が異なりますのでご注意ください

2022年11月2日(水) 19:00～21:00 開催場所: 京王プラザホテル 南館4階「扇」

会費: 1,000円(日本眼科学会認定専門医2単位)

特別講演: 「間違いだらけのぶどう膜炎診療」 後藤 浩 先生(東京医科大学臨床医学系眼科学分野 主任教授)

<第65回東京多摩地区眼科集談会> 前回のご案内と会場が異なりますのでご注意ください

2022年11月19日(土) 14:30～17:00 開催場所: 杏林大学 大学院講堂

会費: 1,000円(日本眼科学会認定専門医2単位)

教育講演: 「黄斑疾患 - 手術前後の視機能と網膜形態 -」 石田 政弘 先生(東邦大学医療センター大橋病院 眼科 教授)

<第13回東京多摩眼科連携セミナー>

2023年4月15日(土) 14:30～17:00 場所: 杏林大学 大学院講堂

会費: 1,000円(日本眼科学会認定専門医2単位)

教育講演: 「未定」 安田 和基 先生(杏林大学医学部 糖尿病・内分泌・代謝内科学教室 教授)

<14th Eye Center Summit>

2023年5月20日(土) 17:00～19:00(予定) 開催形式: WEB 開催

会費: 2,000円(予定)(日本眼科学会認定専門医2単位)

講演1「未定」 外園 千恵 先生(京都府立医科大学眼科学教室 教授)

講演2「未定」 村田 敏規 先生(信州大学医学部眼科学教室 教授)

編集部からのコメント

コロナ禍がようやく明けてくるような兆しが感じられます。杏林アイセンターはご開業された OB の先生方にも支えられていますので、この号の企画として紹介させていただきました。スタッフ共々、来年の角膜カンファランスに向けて準備を進めていますので、多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております。(MI)

Kyorin Eye Center Newsletter

vol. 66
Fall
2022

〒181-8611 東京都三鷹市新川6-20-2 杏林アイセンター Tel: 0422-47-5511 (ext. 2606) Fax: 0422-46-9309

- ◆角膜カンファランス2023のご案内(山田 昌和)<1-2>
 - ◆Konnoの奇妙な冒険「転科、破産、そして継承」(今野 公士)<2-3>
 - ◆臨床も研究もバランスよく、を目指した勤務医時代(伊東 裕二)<3>
 - ◆編集部からのコメント<4>
 - ◆フォトアルバム<4>
 - ◆イベント情報<4>
- <執筆者:括弧に明記 production:中山真紀子、齋藤翔子、仲瀧みずき>

角膜カンファランス 2023 のご案内 (山田 昌和)



角膜カンファランス 2023 (第47回日本角膜学会総会、第39回日本角膜移植学会)を杏林アイセンターが担当する事になりました。期日は2023年2月9日(木)～11日(土・祝日)、場所は横浜みなとみらいのパシフィコ横浜です。

学会のスローガンは Back to the Basics to Meet New Challenges としました。角膜カンファランスは若い医師もベテランの医師も関係なく、オープンに討論できる自由な雰囲気が特徴です。発表の後にオーソリティの先生から質問を受けたり、(たまに) 誉められたりすると研究を続けようという動機、励みになります。ただしこの3年、角膜カンファランスもオンライン、ハイブリッド開催になってしまい、その美点が失われそうになっています。今回はこうした角膜カンファランスの原点、眼科専門医や研究者の原点に帰って、face to face のディスカッションができる場を目指したいと思っています。

今学会ではいくつかの試みを考えています。

1つは一般口演の数を増やすことで、リアルタ

イムの意見交換を重視したいのとポスター会場での密集をできるだけ回避したいためです。また、シンポジウム以外に教育セミナーを3つほど企画しました。教育セミナーではご開業の先生や若い先生にも知っておいて損のない話題として、角膜の病態生理の基本、最新の前眼部検査、眼感染症の診断・治療のノウハウといったテーマを取り上げています。

本学会が開催される頃には、皆様が安心して現地参加できる状況になっていることを心から願っています。学会開催の地は横浜みなとみらいであり、ちょっとした旅行気分もグルメ探求も楽しむことができます。角膜カンファランスの名物企画として参加者全員が無料で参加できる懇親会がありますが、今回は横浜らしい遊覧船に乗ってのディナークルーズを企画しています。ご家族連れでも友人たちとでも、みんなで楽しいひとときを過ごせるようプランを進めています。

皆様におかれましては、どうか事前登録をお済ませの上、学会へのご参加を心よりお待ちしております。角膜カンファランス 2023 を充実したものにしたいと考えておりますのでどうか宜しくお願い申し上げます。

Konno の奇妙な冒険 ～ 転科、破産、そして継承～ (今野 公士)

杏林卒業して4半世紀。そして私は転科組。脳外科医である父の要望で卒業後脳外科に入局。性格的にも合っていたし手術も好きでした。しかし、明るいトークを得意とする自分には、植物状態の患者や死に対する診察が辛くなり、2年後眼科に転局しました。そんな研修医時代、故樋田先生と岡田先生と一緒に、2002年開催のWOC(シドニー)に参加し、ポスター発表をしました。初めての海外学会は、医局の粋な計らいで新婚旅行も兼ねさせていただき、今でも本当にいい思い出です(写真)。

その後すぐに恩師の忍足先生の後継としてオルビタ外来を担当するようになります。忍足先生はもう家業継承されていたので、実情、専門医前の未熟な私ひとりでの外来。そこで平形先生から慶應の野田美香先生をご紹介いただきました。私の手術技術の習得、知識、そして親友との出会いはかけがえないもので、本当に感謝しております。2006年に屈折矯正の世界に諸事情あって踏み入りました。今思うとわがままな医局員ですね。自費美容診療という悪の世界に行っても、毎週水曜だけは欠かさず眼窩外来を一人で継続しました。この外来だけが自分の善の心の支えでした。2010年レーシックバブルは弾け、勤務先も破産しました。給料半年未払いです。平形先生、永本先生から帰室の許可をいただき、また医局員として勤務できることに涙して鳴咽したのを忘れません。その時



左：筆者と家内 中央：岡田先生とコアラ 右：故樋田先生
@2002 シドニー

にバイト先として昭和大学の先生からご紹介されたのが近藤先生でした。近藤眼科継承を提唱され院長を経験したのち、2020年に医療法人インフィニティメディカル(八王子友愛眼科、宇津木友愛眼科、武蔵野眼科の3院)を継承しました。

杏林アイセンターはこの間、井上先生、山田先生、慶野先生も加わり、学術的にも各段に向上しました。私もこうした高レベルな治療を地域に貢献できればと思い、八王子友愛眼科の英語表記を

Hachioji You Eye Center にしました。現在、八王子友愛眼科は白内障、屈折矯正、黄斑網膜硝子体、眼瞼涙道など各専門分野に優秀な先生が担当しています。非常勤含む32名の医師が在籍する眼科専門クリニックになりました。今後は、ロービジョン外来を設立します。私は今年から非常勤講師も拝命しております。三鷹と八王子の地域医療の架け橋に微力ながら貢献していく所存です。何卒宜しくお願い致します。

臨床も研究もバランスよく、を目指した勤務医時代 (伊東 裕二)

2016年に日野という眼科を開業した頃、私はしばらく杏林アイセンターとクリニックを頻繁に往來する生活を送っていました。当時杏林アイセンターで網膜硝子体班として予定手術や緊急手術を執刀し、クリニックでの勤務の日は朝4時半に起床して大学に出勤し、術後診察をしてから日野市のクリニックに移動する状況で、週1回の杏林の外来日以外は毎日が手術日でした。

また杏林アイセンター在職時は網膜硝子体疾患の診療の傍ら、画像関係の臨床研究にも携わらせて頂いていました。そのお陰で国内外の学会発表や海外留学など多くの身に余る経験ができました。臨床や研究以外では、M6学生の試験問題作成、BSLの責任者や研修医の見学受け入れ調整なども担当していました。その経験から医学生や研修医教育の重要性を強く感じるようになり、非常勤講師となった今も医学生の試験問題作成や地域医療実習をクリニックで受け入れる形で学生教育にも関わらせて頂いています。

その他の非常勤講師としての役割としては、月2回の杏林アイセンターでの外来診療や、年に1回の学生講義、時折ですが網膜硝子体班の先生方の論文にも関わらせて頂き、とてもいい刺激を受けています。



2021年から日野という眼科の院長となり、外来や硝子体注射、手術では白内障手術を中心に黄斑前膜、裂孔源性網膜剥離などの硝子体手術を日帰り手術で行える範囲で続けています。緊急症例のご紹介も少しずつ増えており、当然ではありますが急ぐ症例は病状を最優先する対応を心がけています。

現在は地域医療が主となりましたが、自分の中には母校で叩き込まれた眼科医としての心構えや基礎に加え、杏林アイセンターで得た経験が血となって流れているように思います。これからも常に悩みながらも精進し、自分にできるベストな治療を行っていくことで少しでも恩返しをしていく所存です。今後ともよろしく願います。

⇨ 大分大学時代の教授、中塚和夫先生がクリニックに来てくださいました。
(2018年9月撮影)